

京都大学におけるAAL2, IAL2対応と学認クラウド ゲートウェイへの展望

京都大学 情報環境機構 IT基盤センター
副センター長／教授
森村吉貴

KYOTO UNIVERSITY

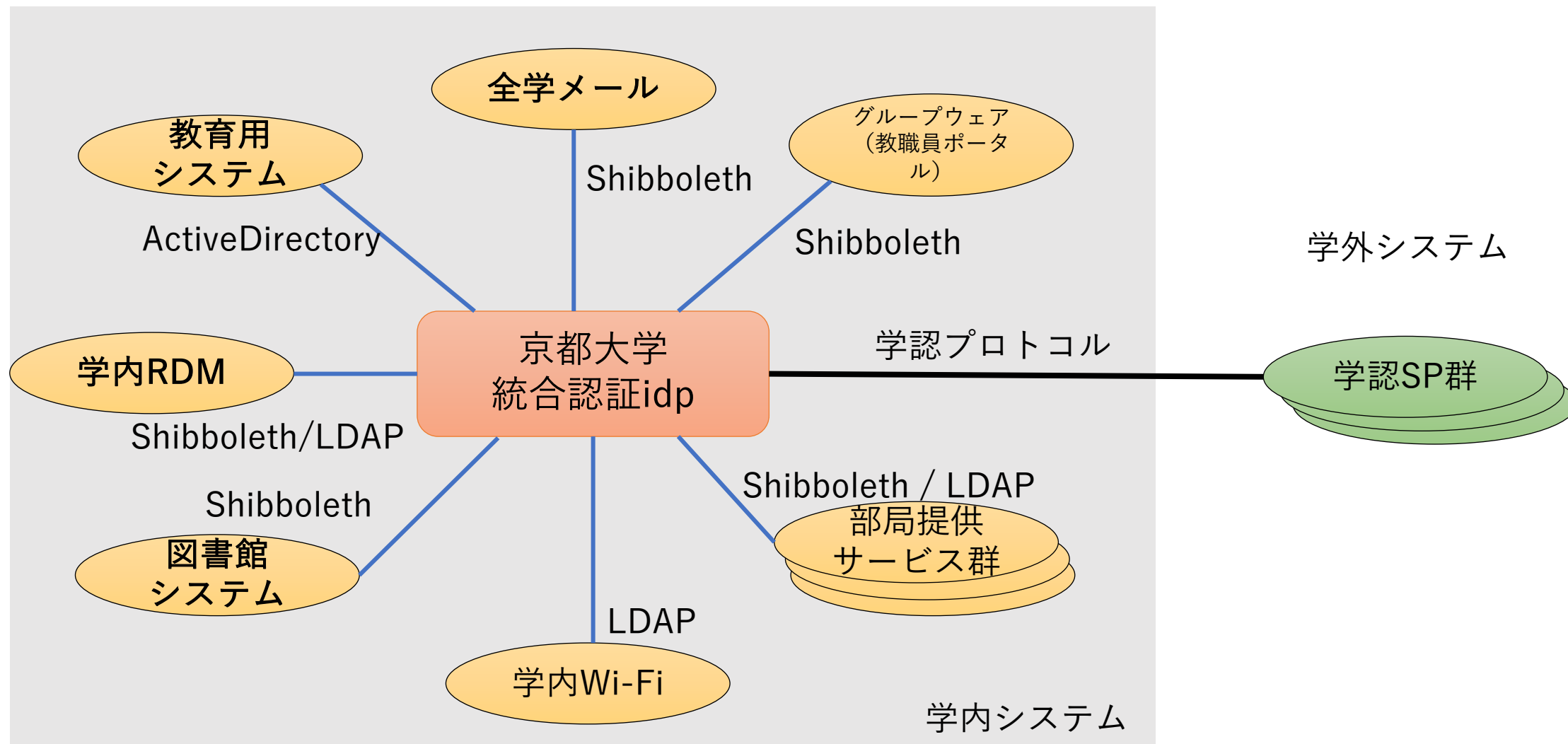
京都大学



組織紹介・自己紹介

- 京都大学情報環境機構IT基盤センター
 - 全学の情報インフラを担う
 - 学内・学外との認証連携を前提とした「全学アカウント」を発行
 - 学認連携IdPの構築運用
- 話者（森村）の自己紹介
 - 全学アカウントの発行センターの責任者
 - 認証技術よりはIDオペレーション寄り
 - 学内の次世代認証連携事業のプロマネ

京都大学の認証連携



京都大学のAAL2/IAL2

- 学内の次世代認証連携基盤事業が始動
 - 学内の認証レベルの向上とともに学認の次世代認証連携に対応
 - IAL2, AAL2の実現、SP／利用者のカバー率上昇
 - 利用者毎のIAL2, AAL2情報の管理
 - 他機関所属の利用者の収容とグループ管理の高度化
 - 学外企業研究者へのアカウント発行
 - 属性・グループに応じた柔軟な認可

京都大学におけるAAL2の方向性

- 対象者やSPごとに段階的に導入
 - 教職員向け→基幹サービス(全学メール等)に多要素認証実現済(2020)
 - 学生向け→2024年内に基幹サービスに多要素認証適用
- 基幹サービス以外の全サービスの多要素認証移行を目指す
 - SP運用者（部局単位）との密なコミュニケーションが必要
- Passkey(Webauthn)対応の強化
 - 現在はメールOTPやTOTP中心でPasskeyはサポート外利用
 - Passkeyメイン化にあたっては登録UI/UXの洗練が必要か

京都大学におけるIAL2の方向性

- 対象者ごとに異なるレベル感
 - 雇用教職員と正規学生はTrusted DBとアカウント発行が直結
 - 雇用プロセスと入試入学プロセスを信頼する
 - 例外的雇用プロセスや称号付与による身分の場合の検証が難しい
 - 対面発行を原則としていたがコロナ禍以降柔軟な発行に
 - 学内の身元確認プロセスの標準化が必要か？
 - ID体系化に関する全学的タスクフォースを立ち上げそこで議論（2023～）

京都大学と 学認クラウドゲートウェイの関係

- 学認CGWは利用可能な状態だが本格的な活用はできていない
- 学内の利用者向けポータル（教職員ポータル、学生ポータル）が存在し、そちらの活用を推進すべき状況
 - 100以上の学内SPをどのように整理して利用者に提示するか？
 - 単純なリンク集では習慣的な利用が見込めない
魅力的な付加価値や効果的な導線を提示できるかが課題
→利用者向けの個別通知機能を実装

サービスレイヤーでの訴求が必要
→学認CGWも類似の課題が存在？

「機関内分類機能」への期待

- ポータルを活用する上では必須の機能と考えられる
 - 京大学内ポータルは教職員ポータルと学生ポータルは別サービス、教職員ポータル内でも教員系メニューと職員系メニューは異なる（身分属性情報による判定）
- 京都大学では利用者のグループ管理を強化予定しプロビジョニングや認可制御に活用予定
 - 自分にはどのようなグループ所属やサービス認可があるか？を確認可能なポータル／ダッシュボードの必要性が増加する見込み